

2015年6月21日

## 2014年度「FDを推進するための活動補助」実績報告書

**申請者：**白石英才、佐々木冠

**目的：**学生が能動的に学習活動に従事するアクティブ・ラーニングの一環として、C館2階学習支援室では全学共通基礎教養科目「論述・作文」の窓口を設け、月曜日から金曜日までTAが1日あたり3時間待機し、受講生の質問に応じている。論述・作文ではすべてのクラスで講義進行、教材を統一しており、教材はすべて論述・作文サイトにアップロードされている (<http://ext-web.edu.sgu.ac.jp/ronsaku/>)。学習支援室の論述・作文窓口にネット環境を整備することにより、TAによる論述・作文教材サイトへのアクセスが可能になり、教材サイトにアクセスして教材を閲覧、あるいは印刷することが可能になる。あるいは質問者が持ち込んだネット上の記事の信ぴょう性をその場でチェックすることも可能になる。そのためTAは受講生の質問に対し手元に教材がある状態で効率よく受け答えすることができ、結果として論述・作文の授業運営の大幅改善につながることを期待される。

**方法：**学習支援室「論述・作文」窓口にインターネット接続したノートパソコンを設置した。

**成果：**当初は学習支援室論述作文利用率を前年度並みかそれ以上を達成したいとの目標を掲げたが、2015年度の学習支援室予算が前年度比30パーセントと過去に例を見ないほど大幅に削減されたため、年間の講義週である30週を通して窓口を開設することが困難となった。そこで2015年度はやむを得ず下記の三つの期間（計41日分）は窓口を閉鎖することとし、認められた予算内で実行できるよう調整した。

- 4月7日（火）から4月27日（月）まで
- 9月24日（木）から10月14日（水）まで
- 12月10日（木）から1月8日（金）まで

試みに前期期間の開室から7週間（35日間）の利用者数を2015年度と2014年度で比較すると下記のごとくであり、利用者数が大幅に低下したことがわかる（ただし2年次以上の利用者は除いてある）。

2014年度（4月7日～5月28日）166名

2015年度（4月27日～6月12日）106名

これには入学者減に伴う受講者数の減少も関係しているものと思われるが、学期開始から20日間を予算削減のため閉室とせざるを得なかったことにより、受講者にとって利便性が著しく低下したことの影響もあると見られる。また学習支援室の利用呼びかけには学期始めの時期を周知期間とすることが望ましいが、今年度は4月27日まで開室できなかったこ

とにより、周知期間と実際の開室期間との間にズレが出てしまったことも利用率低下を招いた要因である。

来年度は利用率を改善すべく予算措置を2014年度並みに戻すことが重要な課題となる。そのためには論述・作文の課題提出期限ではない、利用率の低い時期を可能な限り短くし、窓口が有効活用される方策を新たに導入することが不可避である（下記参照）。これについては現在の窓口を「作文支援窓口」に改組し、論述作文以外の、より多くの日本語文添削に対応した形に改めることを検討し、7月の全学教務委員会に提案する予定である（添付資料1参照）。

**課題（展望）**：上記のとおり論述作文受講者の窓口利用時期が、論述・作文の課題提出直前に集中し、その期間は待ち時間が長くなる一方で、課題提出がない時期は利用率が著しく低下する。後者の対策として来年度は試験的に論述・作文以外で要求される文書の添削（例えば調査への礼状、国際交流事業参加の報告書）ができるよう体制を改めたい（添付資料1参照）。前者については、課題提出が特定の週に偏らないよう講義の進行をクラス間で調整することが有効だが、当面は従来通り専任教員による窓口業務支援という形で対処したい。